

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2020年4月号

NO. 317

TOPICS

PRsjの新型コロナウイルスによる感染拡大防止への対応について

MESSAGE P1

着眼大局、着手小局

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 西島 憲治

MESSAGE P3

協会40周年記念事業の一部延期について

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 畔柳 一典

MESSAGE P4

2020年度の「広報・PR実務講座」を開講

REPORT P5

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー

5F 電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

4月号 目次

ATTENTION(お知らせ)	PRSJの新型コロナウイルスによる感染拡大防止への対応について(4月8日更新)	----- 1
4月～5月のスケジュール		----- 2
MESSAGE(メッセージ)	着眼大局、着手小局	----- 3
設立40周年記念事業	協会40周年記念事業の一部延期について	----- 4
ATTENTION(お知らせ)	2020年度の「広報・PR実務講座」を開講	----- 5
BULLETIN(活動報告)	「PRアワードグランプリ2019」審査団による講評・コメント	----- 9
〃	89名の2019年度後期(第25回)PRプランナー誕生 PRプランナーは2,845名	----- 13
REPORT(講演レポート)	第205回定例研究会(会員限定)	----- 15
協会掲載記事	PRSJ in Media	----- 16

ATTENTION

(公社)日本パブリックリレーションズ協会の新型コロナウイルスによる感染拡大防止への対応について (4月8日更新)

新型コロナウイルスによる感染拡大が顕在化している現状に鑑み、協会職員、協会会員、協会関係者の健康・安全確保を最優先とし、一層の感染防止に取り組むため、協会としての対応方針を以下の通りといたします。

1. 講座・セミナー等の協会主催イベントについて

講座・セミナー、PRプランナー試験など人の集まるイベントの開催見合わせを継続することとし、5月末までの開催を延期または中止とします。

2. 協会主催の会議等について

(1) 委員会、部会について

委員会・部会などの会議は、引き続き当面の間は開催しないこととし、必要に応じてWEB会議などに代替します。

(2) 理事会について

月例理事会は、当面の間はWEB会議形式による開催といたします。

(3) 総会について

6月4日に開催を予定している通常総会は、出席者への感染防止対策を徹底した上で予定通り開催いたします。

3. 協会事務局業務について

国の緊急事態宣言(4月8日発令)を受けて、緊急事態の対象期間とされた5月6日までの間、事務局業務を原則的に在宅テレワークとさせていただきます。会員の皆さまからの問い合わせ対応などはメールによる対応とさせていただきます。

なお、事務局へのご連絡は、[問い合わせフォーム](#)をご利用ください。

4月8日現在の対応方針は以上となりますが、感染の広がりなど今後の状況を注視しながら、随時方針の見直しを行う予定です。

協会会員をはじめ協会関係者の皆さまにはご不便をおかけすることになりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

※新型コロナウイルスによる感染拡大が顕在化している現状に鑑み、4月～5月に予定していたセミナーを中止、または延期とさせていただきます。延期の時期に関しましては、決定次第協会 Web サイトなどでご案内いたします。

4月～5月の理事会・委員会・部 会スケジュール

定例理事会	(4月度)	日 時	: 4月 9日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: WEB 会議にて開催	
	(5月度)	日 時	: 5月 14日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館 (予定)	
教育委員会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
		会 場	:	
資格委員会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
		会 場	:	
国際・交流委員会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
広報委員会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
顕彰委員会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
			:	
企業部会幹事会	(4月度)	日 時	: 開催中止	
PR業部会幹事会	(4月度)	日 時	: 開催中止	

着眼大局、着手小局

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事 西島 憲治

少しでも明るい話題はないものかと考えてみましたが、無理でした。3月に入ってから新型コロナウイルスの感染拡大はとどまるところを知らず、3月末現在では欧米を中心に都市封鎖(ロックダウン)が多発しています。

国内でも爆発的な感染拡大を防ぐためのギリギリの対応が続いており、全く予断を許さない状況です。経済、医療・介護、教育、文化、スポーツなど、各界で大きな影響が出ており、日常生活に大きな支障をきたしています。

PR業務においても、様々な影響が出ています。予定されていた記者発表や取材会、イベントなどは延期や中止を余儀なくされ、今後のスケジュールも見通しが立ちません。PR協会関西部会でも通常の定例会などを休止しています。これまで経験したことのない状況です。

そんな中で新たな取り組みとして、オンライン記者会見を開催するケースが増えてきています。会見会場に記者を呼ばず、オンラインで参加してもらうというシステムです。これまでは「現場」に記者を呼んで、「現物」を体感しながら、「現実」を共有してもらうというのが記者発表会の基本だったと思います。それ自体はオンライン会見では無理ですが、新たなメリットもあるようです。記者にとっては移動時間が要らないので出先やデスクからも参加できますし、主催者側は大きな会場を用意しなくていいのでコストダウンができます。質疑応答や資料共有の方法等も回を重ねていけばある程度解決できると思いますので、コロナ終息後も記者発表のひとつの手法として定着する可能性は十分あると思います。

これは一例にすぎませんが、大小を問わず新たな取り組みやちょっとした工夫により、どんなに困難な状況でもPR活動にできることはあるはずです。今は確かに先が読めない厳しい状況ではありますが、こういう時こそPRの原点に立ち返り“着眼大局、着手小局”、物事を大きな視点から見て、小さなことから実践していくのが一番大事なのかもしれません。

長期戦の覚悟を迫られています。でも、必ずCOVID-19の感染拡大が収束に向かう日がきます。その時こそ、PR活動の反転攻勢の時です。当方が所属している関西部会でも、オモロイこと新たにやっていきたいと思っています。その時まで何としても健康を維持することが肝要です。ここが正念場。みなさん、来るべき時に備え、是が非でもそれまで元気に過ごしましょう！

協会 40 周年記念事業の一部延期について

協会会員の皆さま

いつも協会活動にご理解とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

ご高承のとおり当協会は本年、設立 40 周年を迎えます。今秋には国内外からゲストをお招きして、未来に向けて P R の可能性を追求するための記念事業の開催を予定いたしておりましたが、新型コロナウイルスの蔓延状況に照らして、開催を見送ることを決定いたしました。今後は 2020 オリパラ同様に 2021 年秋の開催を目指して調整を続けることとなりました。残念な結果となったことを皆さまにご報告いたします。

ただし、本年 9 月 16 日に予定しております、会員の皆様とともに 40 周年を祝うパーティーは現在のところ開催する予定です。パーティーの内容や、永年にわたってパブリックリレーションズの発展にご尽力された方を表彰する企画などは実現に向けて検討に入っており、決定次第ご案内させていただきます。

わが国はいま、見えざる敵との戦いを余儀なくされています。まさに近代以来の未曾有の国難と言っても過言ではありません。会員の皆さまにおかれましては、事業への影響は計り知れないものがあるのではないかと危惧しております。

協会は、感染拡大の防止に向けて、講座やセミナー、P R プランナー検定試験などの開催を見合わせることで、6 月の再開を目指すことといたしました。協会の事業計画にも多大な影響を及ぼす事態となりましたが、会員の皆様に多大なご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。なお、ウイルス感染拡大防止については、協会 Web サイトをご参照ください。

(<https://prsj.or.jp/2020/04/08/topics202000408/>)

また、このような状況下ではありますが、正会員の皆様には理事・監事選挙の投票を本日よりお願いいたしております(4/24 〆切)。よろしくごお願い申し上げます。投票方法等ご質問がございましたら、事務局へメールにてお問合せをお願いします。

一刻も早い事態の収束を願うばかりですが、皆さまご自身の安全確保と健康保持をお願いするとともに、皆さまの事業への影響が拡大しないことを切にお祈りいたします。

2020 年 4 月 13 日
公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会
理事長 畔柳 一典

ATTENTION

広報・PR実務講座 2020

2020年度の「広報・PR実務講座」を開講 --今年度は「PRプランナー試験対策講座」を大きく改訂--

教育委員会

協会では、広報・PR実務者の育成に向けた専門研修「広報・PR実務講座」を、2020年5月から開講いたします。その第一弾として、広報・PRの新任者を主な対象とする「広報・PR入門講座」を、オンデマンドで利用可能なWeb講座で開講します。

「広報・PR実務講座」は、入門者から経験者まで幅広い広報・PR関係者の実務に資することを趣旨とする専門研修です。講座は、比較的経験の浅い実務者による広報・PRの基本的知識・スキルの習得をはかる「基礎コース」、業務における一定の経験を持つ実務者の専門的能力の向上をねらいとする「中級コース」、広報・PR部門の管理職を対象としてマネジメント能力の養成をはかる「広報・PR管理職コース」、そしてPRプランナー試験に合格する実力の養成をはかる「PRプランナー試験対策講座」の4つのコース、さらに広報・PRに関するタイムリーな話題を共有する「PRSJセミナー」で構成され、全19プログラムの実施を予定しています。



特に今年度は、「PRプランナー試験対策講座」の大幅な改訂を実施します。

まず、PRプランナー1次試験の受験をめざす皆さまを対象とする「1次試験対策講座」はオンラインによるWeb講座として開講します。受講者はスマホやタブレット、パソコンなどを用いて、時間や場所に制約されことなくフレキシブルに受講することができます。

また、12月開講予定の「3次試験対策講座」は、新たに「広報・PR計画立案の基本講座」を従来の講座に追加して開講します。本講座では企画書の目的や役割、基本構成など広報・PRにおける企画書の基礎にあわせ、3次試験の概要について解説を行います。また、受講者の負担軽減を考慮し、1回あたりの講座時間を120分とし、全7回を開講します。



各プログラムの詳細案内と受講受付は、開講1~2か月前に下記協会Webサイトで行います。なお、新型コロナウイルスによるリスク低減を最大限に考慮し、状況にあわせてプログラムを変更する可能性があります。受講にあたっては、「広報・PR実務講座」ページから各講座の案内をご覧ください、必ず実施内容をご確認いただくようお願いいたします。

日本パブリックリレーションズ協会 「広報・PR実務講座」協会Webサイト
<https://prs.j.or.jp/learn-pr/>

「広報・PR実務講座 2020」 開講予定

以下は、2020年4月現在の開講予定です。実施内容については変更の可能性がありますので、受講ご検討の際は必ず協会 Web サイトでご案内を確認ください。

● 広報・PR入門講座

■ 基礎コース

■ 中級コース

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
広報・PR入門講座 (春期)	新入社、社内異動等による広報・PR業務の新任者が対象。パブリックリレーションズの基本をはじめとして、広報・PR業務に欠かせない最も基本的な知識、スキルをWeb講座で習得する。	Web 講座で 5月下旬から 開催予定	各 40 ～60 分	設定 なし
広報・PR入門講座 (秋期)	秋期からの広報・PR業務の新任者が対象。パブリックリレーションズの基本をはじめとして、広報・PR業務に欠かせない最も基本的な知識、スキルを2日間の研修を通じて習得する。	2020年 10月	全日/2日	60名

● 広報・PRスキルアップ実践講座

講座テーマ	講座概要	開講時期	講座時間	定員
デジタルPR(Ⅰ) (講義+演習)	デジタル世界の最新トレンドを踏まえて実践的な「デジタルPR」を紐解くことを目的とし、デジタルをフルに活用するための戦略の仕掛け、計画における細部の工夫、情報拡散の経路などについて多彩な事例を通じて「デジタルPR」のあり方を学ぶ。	2020年 6月 (3月からの 変更)	午後半日 (4時間)	各回 40名
危機管理広報 (講義+演習)	企業等における緊急事態へ対処できるよう、広報・PR担当者にとって不可欠となる考え方や心構え、コミュニケーション施策の立案やメディアへの対応法など、危機管理広報の基本について講義と演習を通じて習得する	2020 7月	午後半日 (4時間)	
企業広報 (講義)	企業経営における広報・PRの位置付けや役割、広報戦略や計画の立案など企業広報のポイントについて、コーポレート・コミュニケーションの理論や企業のケーススタディを通じて習得する	2020年 9月	夜間 2時間	
リサーチ&PR プランニング (講義)	PRプランニング(広報計画作成)の基礎となる広報環境のリサーチ(調査・分析)の手法を学び、リサーチからPRプランニングに至る考え方を理解する。リサーチではデジタル的な手法の活用を考慮し、実践的なPRプランニングの方法を習得する。	2020 10月	夜間 2時間	

危機対応 (講義)	組織体における危機発生に際し、その原因、対応における成功や失敗について理論やケーススタディを通じて理解を深め、広報・PR担当者が備えるべき心構えや対応のポイントを習得する。	2020年 11月	夜間 2時間	各回 40名
マーケティング PR (講義)	商品の販売や市場における普及を目的とするマーケティングPRについて、効果を上げる新しい考え方や手法、計画の立案法などについて、理論やケーススタディを通じてそのポイントを習得する。	2020年 12月	夜間 2時間	
デジタル 危機管理 (講義)	デジタル化を背景に発生する緊急事態において、広報・PR担当者に求められる考え方や心構え、危機管理施策の立案やメディアへの対処法などの基本について、理論やケーススタディを通じて習得する。	2021年 1月	夜間 2時間	
企業文化醸成 (講義)	経営理念の浸透、企業文化の醸成などを目的とするインターナル・コミュニケーションについて、その経営的な意味や役割、戦略及び施策の立案などのポイントを理論やケーススタディを通じて習得する。	2021年 2月	夜間 2時間	
デジタルPR(Ⅱ) (講義+演習)	デジタル化した現在のコミュニケーション環境の現状や特性を理解するとともに、これからのPRプランニングの考え方や実務においてデジタルを活用するポイントを講義と演習を通じて習得する。	2020年 3月	半日 (4時間)	

■ 広報・PR管理職コース

● 新任広報部長講座

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
新任広報部長講座 お悩み解決の交流 サロン～ベテラン広 報部長に学ぶ	新任の広報部長や広報担当役員などの上級管理職を対象として特化し、少数限定のサロン形式で開講。上級管理職として就任後の悩みを共有し、講師とともに解決策を探ることをコンセプトとする。	2020年 11月	半日	16名

■ PRプランナー試験対策講座

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
1次試験対策講座	広報・PRの幅広い内容を平易に解説し、1次試験の合格に必要な知識の習得をめざす講座。ネットを活用したオンデマンド方式で開講。	2020年 7月 2021年 2月	各40 ～60分	Web 講座
2次試験対策講座	広報・PRにかかわる専門分野を平易に解説し、2次試験の合格に必要な知識の習得をはかる講座。ネットを活用したオンデマンド方式で開講。	通年	申込から 12週間	Web 講座

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
3次試験対策講座	広報・PRの計画作成の基本、広報・PR計画の立案作成(マーケティング及びコーポレート)、ニュースリリースについて、講義と演習を通じて合格に必要な知識とスキルを習得する試験対策の実践講座。	2020年 12月	夜間2時間 全7回	会場 40名

■PRSJセミナー

●事例セミナー

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
PRアワード 受賞事例公開 セミナー	「PRアワードグランプリ」のグランプリをはじめとする優れた顕彰事例を紹介する。広報・PR事例に関心を持つ実務者一般、研究者、学生を対象に、成功したプロジェクト事例について講演と質疑、さらに審査員メンバーによるトークセッションを通じて、企画アイデアや推進の考え方、工夫等を学ぶセミナー。	2021年 2月	夜間 2.5時間	100名

●オープンセミナー

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
PRSJ オープンセミナー	広報・PRとも関連する社会的かつタイムリーなテーマを設定して開催するセミナー。協会会員にとどまらず一般にも聴講を募り、設定したテーマについての理解や知見を深める。	時期未定	夜間 2.5時間	110 名

●新春PRフォーラム

講座名	講座概要	開講時期	講座時間	定員
新春PRフォーラム 特別講演	新しい年の国内外の情勢を予測するテーマやPRに関する重要なテーマを設定し、今年度もそのテーマに知見の強い著名な講師によって、様々な角度から問題を掘り下げる。	2021年 1月下旬	夕方 1~1.5 時間	100 名

(事務局・真部)

「PRアワードグランプリ 2019」審査団による講評・コメント —— 顕彰委員会 ——

昨年開催した「PRアワードグランプリ 2019」について、審査団からの講評・コメントが届きました。ぜひ皆様の今後のPR活動のご参考にしていただければ幸いです。



審査委員長

株式会社電通パブリックリレーションズ 執行役員

井口 理

- ①「イマ」よりも「未来」を見いだす
- ②「業界人」として評価し、「一生活者」として感じる
- ③既存のPR手法に囚われず、統合コミュニケーションの中にPRエッセンスを見いだす

今年の審査基準として、これら3点を掲げました。

グローバル環境と比較して5年遅れとも感じていた日本のPR業界は、急速に進化を遂げ、今やほぼ肩を並べるまでになったと感じています。しかし海外アワードに見るような高次レイヤーでの関わり方、またその「やり口」の国内での投入は未だハードルが高いことも事実です。

とはいえ今年は、それら難解な国内事情に抗いつつも強い意志で課題解決へチャレンジしたもの、そして今後の拡がり強い確信を抱かせる「これからのPR」を体現する案件が数多く並んだことは嬉しい限りです。

「過去のベストプラクティス」を業界目線で評価するのではなく、「一生活者として共感できる未来形のPR」を今年見ることができたように、今後さらにグローバルで先端を行くような事例が次々現れることを期待してやみません。



一橋大学大学院 経営管理研究科 教授

阿久津 聡

今回の審査会では、前回にも増して多様な意見を活発に交換しながら議論し審査を進めることができた。特に前回から意識して「PRとは何か」という本質的な議論もしながら審査を進めてきたことによる成果か、審査委員で共有する「知識のコア」のようなものが生まれ、それによって異なる視点や多様な意見をさらに許容することが可能になり、充実した議論となったように思う。一方、応募作品の質も、全体としてさらに上がった。審査員として素晴らしい作品に出会えたことに感謝したい。



アマゾンジャパン合同会社
パブリック・リレーションズ本部 本部長
金子 みどり

この度、初めて審査に関わらせていただきました。応募作品を通し、日本におけるパブリック・リレーションズも経営に直結した戦略的役割を担いつつあるという位置付けが見えてきました。一過性のキャンペーンではなく、社会的なインパクトで他を動かす力に変わっていったり、時間をかけて Relations を育くみ様々なステークホルダーを巻き込んだり、有数の大学ブランドと海を越えた価値創造に挑んだり、複雑な人間模倣を創造性豊かにコンテンツ化していくことで集客に繋がったりと、戦略的かつグローバルにも有効な発想がたくさん盛り込まれていました。審査委員間の意見交換や議論は応募作品と同じくらい(笑)学びと納得があり、一点一点に込められた関係者の皆さんに対するリスペクトを感じました。このPRアワードが世界に飛び立つ時期に来ているのではないかという期待を込めて、応募いただいたチームの皆さんに引き続きチャレンジをお願いしたいと思います。



(株)旭エージェンシー 代表取締役社長
高木 恵子

昨年に引き続き、審査員をさせて頂きました。貴重な機会を頂きありがとうございました。今年のエントリーは、結果がしっかり出ている活動が多かったように思いました。裏返すと、質の高いサービスが提供できているということなので、日本のPR業界の未来は明るいと感じられました。また、ソーシャルグッドという新しいカテゴリーもできたことで、そのエントリー数も多かったように思います。引き続き、他のケースからも学び、切磋琢磨して業界の発展につながればと思います。



プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株)
広報渉外本部
カンパニーコミュニケーションズシニアマネージャー
田上 智子

光栄にも審査員として初参加させていただきました。全応募作を拝見する中で、私自身にとって多くの気づきと学びがあり、また「PRで出来ること」の可能性の広さを再認識する機会となりました。多くの事例が社会課題に貢献することをめざしながら、自社ブランドのパーパス強化を目指していることもうれしく感じました。PRらしい戦略的思考と戦術をもって世の中へ発信し、人々の心を動かすことのできた作品が受賞したと思います。最後に、審査員団での議論は様々な立場から多くの至極のコメントがあり、大変大変勉強になりました。このような貴重な機会をいただけたこと、PR協会の皆様に心から感謝しております。



(株)博報堂

統合プランニング局 チームリーダー/PRディレクター

永淵 雄也

審査員として初参加させて頂きました。改めてPRという技術の汎用性の広さにその奥深さを感じるとともに、評価の難しさを体感しました。それだけPRの技術が多方面で使われはじめているんだと思います。その中で出会えた沢山の「悔しい仕事」に触発されるとともに、でもやっぱり「PRって昔からこういうものだよな」となりがちなのも事実。個人的には、もっと、“PRの進化”が伝わる取り組みに挑戦

してみたいものだと悩みが深まりました。



ジャーナリスト/メディアコラボ代表

古田 大輔

「パブリック」との多様な関係性を変えていくPRは、他業界から審査に入った私にとって学びとなりました。特に「パンテーン『#この髪どうしてダメですか』」は、私が編集長をしていた BuzzFeed でも報じた黒髪を生徒に強要する問題に関連したキャンペーン。ニュースを超えて世の中にポジティブなメッセージを伝えるパワーに感動を覚えました。社会課題を解決する「建設的ジャーナリズム」という考え方がありますが、「人の認識を変え、行動変容を促す」PRの手法には、そこに繋がるヒントがあると感じました。

は、そこに繋がるヒントがあると感じました。



株式会社本田事務所 代表取締役/

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 顕彰委員会

本田 哲也

エントリーした皆様、ありがとうございました。そして受賞された皆様、あらためておめでとうございます。PRアワードグランプリはこの3年ほど深く関わっていますが、毎年格段にレベルアップしています。いっぽうで海外アワードのレベルにはまだもう一歩です。PRアイデアが斬新な場合は継続性や持続性に課題が。地に足のついたPR活動の場合はユニークさや話題性に課題が。この両立こそが難しいところですが、優

れたPRの要件でもあります。今年のエントリーも楽しみにしています。



株式会社井之上パブリックリレーションズ
アカウントサービス本部 戦略企画部 部長
横田 和明

今年のPRアワードのポイントは、「Why PR?」への解を応募者がエントリーシート（ES）に込めていたかだと思います。上位入賞組のESでは、関係構築すべきステークホルダー、そして、社会や顧客企業・消費者が現代社会で抱える数々の「痛み」をパブリックリレーションズでどのように癒すのかが精緻に描かれていました。

一方で、書き方次第では、再度評価の対象になる案件もあると感じています。Advertimesで「課題設定にこそ、クリエイティビティがある」というESのポイントをまとめた記事がありますので、参考にしていただけたらと思います。ぜひ諦めずにリトライしてください！



株式会社サニーサイドアップ
バイスプレジデント
松本 理永

コミュニケーション領域においてPRが非常に大きな役割を担うようになる中で、今年のPRアワードでは「なぜこの課題をPRで解決するのか」という本質を改めて問う形となりました。

エントリーシートにもそうした項目が加えられ、また審査においても、そこにこだわる議論が多くなされました。

応募される皆さんにしたらもしかしたら難しい問いだったかもしれませんが、この本質に基づいて、課題をしっかりとらえ、アイデアを巡らせ、ストーリーを掘り下げ、ファクトを積み重ね、ステークホルダーをがっちり巻き込んでいった案件が、やはり大きなうねりを生み出し、世の中を動かしていく。

受賞作をご覧くださいと、それがよくわかっていただけるとは思いません。

そしてアワードは1年ごとの区切りがありますが、「この案件はこの先、もっともっと大きなムーブメントになっていくのではないかと」そう感じられワクワクする作品にも多く出会うことができました。それもPRの本質です。多くのPRパーソンの日々の奮闘に敬意を表します。

PRプランナー資格認定制度／検定試験

89名の2019年度後期（第25回）PRプランナー誕生 PRプランナーは2,845名

資格委員会

今年1月に実施された第25回PRプランナー資格認定検定試験／3次試験の合格者のうち89名が、3月に行われた書類審査を経て、PRプランナーの資格を取得されました。

ここに、長期間にわたるご奮闘に敬意と祝意を表してご氏名を公表させていただきますとともに、今後のさらなるご研鑽とご活躍を期待いたします。

2019年度後期（第25回） PRSJ 認定PRプランナー

(50音順／敬称略)

◇個人名所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

一門 真由美 ((株)万城食品)
 今関 亜矢乃 ((株)プラップジャパン)
 岩永 梓 (大網(株))
 上田 輝彦 (WIP ジャパン(株))
 小倉 明紀子 (NPO 法人アートネットワーク・ジャパン)
 笠原 智子 (東京センチュリー(株))
 加藤 紀子 (日本ビジネスシステムズ(株))
 金井 玲奈 (アウンコンサルティング(株))
 川北 汐美 ((株)クリーク・アンド・リバー社)
 木下 智史 (住友商事(株))
 木下 浩之 (三谷産業(株))
 木村 和貴 ((株)電通パブリックリレーションズ)
 蔵前 伸彦 (日本コカ・コーラ(株))
 近藤 愛実 ((株)グローバル・リンク・マネジメント)
 澁谷 太基 (共同ピーアール(株))
 竹内 晃治 ((株)西武ホールディングス)
 立花 香澄 (特定非営利活動法人ロシナンテス)
 田中 健太郎 ((株)電通)
 谷口 真由加 (ClipLine(株))
 富田 杏奈 (エステー(株))
 富田 浩一郎 ((株)I&S BBD0)
 西海 翔 ((株)プラチナム)
 西川 浩 ((株)ジェイアール東日本企画)
 沼尻 佳奈 (VAIO(株)東京オフィス)
 橋本 咲彩 ((株)Phybbit)
 羽尻 匡弘 ((株)JR 西日本コミュニケーションズ)
 菱田 遥平 (凸版印刷(株))
 藤原 沙織 ((株)プラチナム)
 堀井 美華 (その他)

本田 浩太郎 ((株)リコー)
 松浦 剛志 (学校法人順天堂)
 水野 富夫 (凸版印刷(株))
 矢野 裕美
 山本 翼 ((株)モンスター・ラボ)

◇個人名所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

石井 和裕 (一般企業(その他の部署))
 海保 さよ (一般企業(広報・PR関連部署))
 川井 絢子 (一般企業(その他の部署))
 鈴木 安由子 (自治体・行政機関)
 舘 久美子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 寺澤 萌美 (一般企業(広報・PR関連部署))
 土井 泰輝 (PR関連会社)
 長沢 美香 (PR関連会社)
 松本 紅美子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 松元 涼子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 三橋 敦子 (PR関連会社)
 室崎 佳奈 (一般企業(広報・PR関連部署))
 山下 浩志 (一般企業(広報・PR関連部署))
 吉田 佳菜 (一般企業(その他の部署))

◇所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

(株)インテグレート … 女性1名
 AGC(株) … 女性1名
 エム・エム・エス・コミュニケーションズ(株) … 女性1名
 KDDI(株) … 女性1名
 特定非営利活動法人国境なき医師団日本 … 男性1名
 (株)資生堂 … 女性1名
 (株)電通 … 男性1名
 (株)東京個別指導学院 … 男性1名
 ビルコム(株) … 女性1名
 広島県庁 … 男性1名
 (株)メルカリ … 女性1名

◇所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

PR関連会社 … 男性2名、女性1名
 一般企業(広報・PR関連部署) … 男性2名、女性3名
 一般企業(その他の部署) … 男性1名

※上記PRプランナーの皆様には事前に掲載の承諾を得ております。

会員限定

第205回定例研究会

Twitter の最新動向と多彩な活用事例

～PR、マーケティングで成果の上がる Twitter 活用法を探る～

講師:Twitter Japan 株式会社
Twitter Client Solutions
CPG 業界担当 シニアクライアントパートナー
青山康成氏

第 205 回定例研究会 (2 月度) は、2 月 19 日(水)、六本木アカデミーヒルズで開催しました。講師は Twitter Japan (株) Twitter Client Solutions CPG 業界担当 シニアクライアントパートナー 青山康成氏。テーマは「Twitter の最新動向と多彩な活用事例～PR、マーケティングで成果の上がる Twitter 活用法を探る～」でした。



PRSJ in Media

●2月29日（土） 『月刊広報会議』4月号

『月刊広報会議』4月号における当協会の連載コラムで、1月22日に協会が開催した「新春PRフォーラム」と日本PR対象の表彰式についてとり上げられました。

コラムは、「日本PR大賞」における「パーソン・オブ・ザ・イヤー」にラグビー日本代表のヘッドコーチを務めるジェイミー・ジョセフ氏が、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には一般社団法人「注文をまちがえる料理店」が選出されたことに触れ、当日の表彰式の模様とそれぞれの賞の受賞理由などが紹介されています。

●3月20日（金） 『企業と広告』4月号

『企業と広告』4月号のコーナー「協会ニュース」において、当協会が創立40周年事業として「アジア・パシフィック PRovoke サミット&SABRE アワード」を招聘し、9月17日東京プリンスホテルで開催することが報じられました。記事では同サミットの概要と、当日「東京宣言」の発信が行われることが紹介されています。

●2月27日（金） 『CM通信』

『CM通信』2月27日号で、当協会が創立40周年の中核事業として「アジア・パシフィック PRovoke サミット&SABRE アワード東京」を、9月17日東京プリンスホテルで開催することが掲載されました。記事では「アジア・パシフィック PRovoke サミット&SABRE アワード」の概要及び内容、「東京宣言」の発信予定、協会の40周年事業の実施骨子について紹介されています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいとおもいますので、
よろしくお願い致します。

広報員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載